食品安全情報（化学物質） No. 6/ 2016（2016. 03. 16）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部
(<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>)

<注目記事>

【WHO】 国際がん研究機関（IARC）：グリホサートについての Q&A

IARC が、2015 年 3 月にグリホサートを「おそらくヒト発がん性がある」（グループ 2A）に分類したことに関連して Q&A を公表した。この分類は、ヒトでの発がん性についての（実際に現実世界で暴露されたことによる）「限られた limited」根拠と、実験動物での（「純粋な pure」グリホサートの研究からの）「十分な sufficient」根拠に基づくものであり、結論に至るまでに IARC は約 1,000 の研究をレビューした。

*ポイント： IARC による分類が発表されて以降、BfR や EFSA が IARC の主張は製剤中のグリホサート以外の物質に由来するのではないかと指摘してきましたが、今回 IARC から発表された Q&A は、BfR らの意見に真っ向から対立しようとする内容となっています。他国の反応を見ても IARC のみがグリホサートにヒト発がん性があると主張している状況なのですが、今後予定されている JMPR の再評価結果が出るまでは、このまま対立が続くものと考えられます。

【FDA】 FDA は特定の食品のアクリルアミド削減方法についての企業向け最終ガイダンスを発表

米国食品医薬品局（FDA）は、ヒト健康リスクを低減することを支援するために、事業者に対し、製造している食品中のアクリルアミド濃度を認識して実施可能であれば削減への取り組みを検討するよう薦めている。本ガイダンスは、アクリルアミド濃度を減らすために可能な多様なアプローチを提案している。最大推奨濃度やアクションレベルは特定しておらず、法的な強制措置を行う権限をとまなうものではない。

*ポイント： ジャガイモと穀物を主原料とする食品中のアクリルアミドを減らすために事業者が使える技術について紹介しています。日本の製造業者にとっても参考になるはずです。

【EFSA】 EFSA/WHO 報告書は毒性学的懸念の閾値（TTC）に関する勧告を示す

欧州食品安全機関（EFSA）及び世界保健機関（WHO）は、化学リスク評価への毒性学的懸念の閾値（TTC）をレビューするための合同ワークショップを 2014 年 12 月 3～5 日に開催し、その報告書を公表した。参加した専門家らは、TTC アプローチは科学的リスク評価の基本原則に基づいておりスクリーニングツールとして使用できると結論した。報告書では、合意された TTC 値と、それに伴う助言についてまとめている。

【FSA】 アレルギーをおこす食品を乳児に生後 3 ヶ月から与えることがアレルギーを予防するかもしれない

英国食品基準庁（FSA）は、“アレルギーをおこす食品を乳児に生後 3 ヶ月から導入することが、推奨量を摂取した場合にはアレルギー予防に役立つかもしれない”という発見をした FSA 資金提供による大規模研究が NEJM に発表されたことを公表した。この研究は、母乳を与えられていてアレルギーをおこす食品を生後 3 ヶ月から与えた乳児と、生後 6 ヶ月まで母乳のみで 6 ヶ月以降に食品を与えた乳児とを比べている。

目次（各機関名のリンク先は本文中の当該記事です）

[【WHO】](#)

1. 世界的枠組み作りの選択肢について意見募集
2. 貿易の技術的障害
3. 国際がん研究機関（IARC）：グリホサートについての Q&A

[【EC】](#)

1. 食品獣医局（FVO）査察報告：米国、スウェーデン、ウクライナ/ベラルーシ、ブラジル、中国、フランス
2. 食品及び飼料に関する緊急警告システム（RASFF）

[【EFSA】](#)

1. 野外試験を統一する農薬ガイダンス
2. #Efsa4Bees へようこそ
3. 一日当たり 0.0025 µg/ 体重 kg 以下の摂取量でも特に懸念となる物質を発がん性データベース（CPDB）から同定
4. 食品と接触する物質関連
5. EFSA/WHO 報告書は毒性学的懸念の閾値（TTC）に関する勧告を示す
6. EFSA-RIVM シンポジウム：化学物質混合物のリスク評価と毒性試験の将来
7. AMAC/EEIG の提出した申請に基づく全ての動物種用 *Corynebacterium glutamicum* の様々な株を用いて産出した濃縮液状 L-リジン(塩基)、L-リジン 1 塩酸塩、L-リジン硫酸の安全性と有効性

[【FSA】](#)

1. Nua Naturals は表示されている使用方法が不正確なためオーガニックアプリコットカーネルをリコール
2. 2016 年 3 月 12 日までチアシードについての意見募集
3. 理事会ペーパー発表
4. FSA 長官任命
5. アレルギーをおこす食品を乳児に生後 3 ヶ月から与えることがアレルギーを予防するかもしれない
6. 高濃度セレンのため USN Diet Fuel Ultralean (バニラクリームフレーバー)栄養シェイクリコール

[【NHS】](#)

1. Behind the headlines

[【ASA】](#)

1. ASA 裁定

[【BfR】](#)

1. メディア報道と科学的評価の乖離が消費者の疑いを招く
2. 感受性の高い集団、特に子ども達が、科学的リスク評価の全ての基本となる
3. BfR での研究：家禽の肥育で抗菌剤耐性病原菌を減らす計画が始まる

[【RIVM】](#)

1. ビスフェノール A : パート 2. リスク管理の助言
2. 企業から提供された使用量に基づいた食品添加物二酸化チタン(E 171)の暴露評価

[【ANSES】](#)

1. リクエスト No 2015-SA-0093 のグリホサートについての意見
2. フランスで使用認可された農薬カタログ、E-Phy ホームページ復活

[【FSAI】](#)

1. Nua Naturals オーガニックアプリコットカーネルを表示されている摂取方法が正しくないためリコール
2. 摂取方法の提示がないためレインボーオーガニックアプリコットカーネルをリコール
3. 極めて高濃度のセレンにより USN Ultralean 栄養シェイクリコール

[【FDA】](#)

1. FDA は特定の食品のアクリルアミド削減方法についての企業向け最終ガイダンスを発表

2. FDA は消費者のための多言語健康詐欺保護計画を発表
3. 公示：Sextra には表示されていない医薬品成分が含まれる
4. 警告文書

【NTP】

1. NTP モノグラフ案のピアレビュー予定

【USDA】

1. より個人的な助言を提供できる研究を推進するための栄養ロードマップ目標
2. オーガニック、遺伝子組換え、及び非遺伝子組換え作物の共存における経済問題

【Justice】

1. 食品成分企業の社長が数百万ドルの詐欺とメタンフェタミン前駆体悪巧みの罪状を認める

【CFIA】

1. 果物と木の実業界向けバイオセキュリティ基準発表
2. 企業向け通知－新しいハラール表示と広告規制の執行

【NSW】

1. 消費者は Bangkok Betty Tea を摂取しないように

【MPI】

1. 公衆衛生警告－貝のマリンバイオトキシン
2. 私達の食品の中に何が入っているか調べるためのニュージーランドトータルダイエットスタディ
3. 未殺菌乳を消費者に販売するための新しい基準発効
4. ニュージーランドのミツバチ巣箱の喪失は「低～平均的」

【香港政府ニュース】

1. 鉛増加事例は今や正常

【MFDS】

1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果
2. 残留農薬が基準を超過して検出された輸入浸出茶製品の回収
3. 食品医薬品安全庁、遺伝子分析による食品原料の真偽判別法の開発
4. 春の貝毒安全上の注意
5. 総アフラトキシン基準超過のピーナッツ製品の回収措置

【その他】

- ・食品安全関係情報（食品安全委員会）から
- ・(ProMED-mail) シガテラ魚中毒－米国：(北マリアナ諸島)
- ・(ProMED-mail) 鉛、水－米国(第3報): (NY)
- ・(EurekAlert) 新しい研究によると、乳児用ミルクはアトピー性皮膚炎やアレルギーリスクを減らさない
- ・(EurekAlert) 知見は膝の骨関節炎の痛みを減らすのにビタミン D を使うことを支持しない

● 世界保健機関（WHO : World Health Organization）<http://www.who.int/en/>

1. 世界的枠組み作りの選択肢について意見募集

Consultation on options for establishing a global development and stewardship framework

http://www.who.int/phi/news/consultation_stewardship-framework/en/

WHO は 2 月 29 日、抗菌剤耐性対策のための世界的枠組みを作る選択肢について意見募集を開始した。

2. 貿易の技術的障害

Technical Barriers to Trade

10/03/2016

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/roster/detail/en/c/387539/>

ーコーデックス事務局 Tom Heilandt による WTO/TBT 協定委員会でのスピーチの紹介ー

WTO の TBT (Technical Barriers to Trade) 協定は、WTO 加盟国に対し、貿易促進のために自国の規則、基準及び用いる評価手続きについては国際基準に基づくべきであることを推奨している。コーデックス委員会の総会で基準や文書が承認されたらそれらは加盟国による適用が奨められるものである。その基準を取り入れるのかは、公正な範囲で、委員会で達成された合意の強さによる。また、異なる措置を使用したいと考える国の状況にもよる。そのような措置は SPS 措置の場合にはリスク評価によって正当性を示すことが必要になるが、貿易 (TBT) を扱う場合には明確ではない。

TBT で食品に関連して 20 以上のことが話し合われており、その多くは「コーデックス基準に従っていない」と主張している。この件について、コーデックスガイドラインがないことが自動的に措置がコーデックスに従っていないという意味になるわけではない、と強調した。賞味期限や包装表面への表示、栄養警告や GM 表示、誤解を招く表示などを例にあげた。

3. 国際がん研究機関 (IARC)

グリホサートについての Q&A

Q&A on Glyphosate

1 March 2016

http://www.iarc.fr/en/media-centre/iarcnews/pdf/Q&A_Glyphosate.pdf

2015 年 3 月、IARC はグリホサートを「おそらくヒト発がん性がある」(グループ 2A) に分類した。

これはヒトでの発がん性についての (実際に現実世界で暴露されたことによる) 「限られた limited」根拠と実験動物での (「純粋な pure」グリホサートの研究からの) 「十分な sufficient」根拠に基づく。

IARC はさらに「純粋な」グリホサートとグリホサート製剤の両方に遺伝毒性があるという「強い strong」根拠があると結論した。

IARC モノグラフは、全ての公開されている妥当な研究を系統的に集めたレビューに基づき、利害関係のない独立した専門家によるものである。厳密な科学的基準を用いて、その分類システムは世界中で参考文献として使われている。これは IARC の評価が独立した科学的レビューと厳密な基準と方法を用いているからである。

この結論に至るのに IARC は約 1000 の研究をレビューした。一部の研究は農家のように仕事で暴露されている人を調べた。他に実験でがんやがん関連影響を調べた研究がある。

グリホサートの発がん性は製剤に含まれる他の化合物に関連する？

ノー。IARC モノグラフはグリホサートの発がん性に関する全ての公開されている根拠のレビューに基づく。ほとんどのヒト暴露はグリホサートと他の成分を含む市販の製剤である。モノグラフはこれらの現実世界でのヒト暴露の研究を含む。また「純粋な」グリホサートやグリホサートベースの製剤を使った実験研究も含む。

「純粋な」グリホサートを使った実験研究について、モノグラフは実験動物での発がん性の根拠が「十分」で遺伝毒性の根拠が「強い」と結論した。現実世界でのヒト暴露は他の化合物を含む多様なグリホサート製剤へのものである。異なる時期、地域で使われた異なる製剤で同様の結果が報告されている。

これら全ての根拠をまとめて、IARC ワーキンググループはグリホサートをグループ 2A に分類した。IARC モノグラフの分類基準に従って、ヒトでの発がん性についての（実際に現実世界で暴露されたことによる）「限られた」根拠と実験動物での（「純粋な」グリホサートの研究からの）「十分な」根拠に基づく。この分類はさらに「純粋な」グリホサートとグリホサート製剤の両方に遺伝毒性があるという「強い」根拠により支持される。

IARC モノグラフの遺伝毒性の原因は製剤と一緒に使われている成分が原因か？

遺伝毒性に関しては、「純粋な」グリホサートでの研究も評価した。そして製剤とグリホサートの両方で同じハザードの結論に達した。グリホサートの遺伝毒性の根拠は「強い」、グリホサート製剤の遺伝毒性の根拠は「強い」と結論した。

いくつかの疫学研究で職業上のグリホサート暴露でがんが増加している。これはグリホサートだけが原因かあるいは製剤に含まれる他の化合物のせいか？

現実世界では人々はグリホサートに製剤として暴露される。異なる地域や時期にいろいろな製剤で、同じように非ホジキンリンパ腫が増加している。動物実験やヒト培養細胞での「純粋な」グリホサートの実験が、この結論を支持する。「純粋な」グリホサートの実験により、モノグラフは実験動物での発がん性の根拠が「十分」で遺伝毒性の根拠が「強い」と結論した。

評価した重要な研究のひとつが農業健康研究(AHS)である。この研究では非ホジキンリンパ腫とグリホサートの関連は見られていない。この研究だけで他の正の関連がみられた研究を上回るか？

AHS は「最も強力な」研究とされているが、それは正しくない。AHS は米国の二つの州の 5 万人以上の農家と農薬散布者のがんと農薬使用のデータを集めた。この研究の弱点はフォロー期間が短いことで、そのことは時間が経って現れるがんが少ないことを意味する。そのことがこの研究が本当は存在するかもしれない関連を検出する能力を制限する。従って AHS が大規模で質の高い研究であっても他の研究を上回らない。

さらに IARC ワーキンググループは、AHS や症例対照研究を含む全てのグリホサートと非ホジキンリンパ腫の研究結果の客観的統計解析を行った。その結果、非ホジキンリンパ腫とグリホサートに統計学的に有意な関連が示された。

IARC の評価した研究は有害な量のグリホサートに暴露された動物でのみがんが見られた

のか？

ノー。マウスの研究で「純粋」グリホサートの高用量で統計学的に有意にがんが増え、用量により反応が増加することが示唆される。毒性がなくてもがんが見られた。

IARC が重視したのは、グリホサートは未処置動物では滅多に見られないがんを誘発したことである。希ながんは因果関係の重要な根拠となるが高用量でしかみられない場合がある。IARC ワーキンググループのこれらの腫瘍への評価は認められている基本原則に沿ったもので極めて意味がある結果をもたらした。

規制機関は IARC の検討した研究をレビューしてグリホサートはヒトにとって不当なリスクとはならないと結論している。何故 IARC は違うのか？

多くの規制機関は企業の提出した公開されていない毒性データを用いている。一方 IARC は公開されている全ての根拠を評価している。

IARC のグリホサートモノグラフではワーキンググループが検討した情報源は約 1000 で、それらはモノグラフの基準に従って妥当性をスクリーニングされた。このスクリーニングの後、モノグラフで引用している。疫学と実験動物の章では全ての研究を引用しているが、暴露とメカニズムの章では代表的なものを検討し必ずしも全てを引用していない。発表されたグリホサートの IARC モノグラフの引用文献は 269 である。

透明性のため、IARC の評価では公開されたデータで独立した科学的レビューに使用できるものしか評価しない。企業の研究でも基準を満たせば評価対象にする。しかしながら発表された論文の補遺としてオンラインに発表されたデータについては独立した評価に十分な詳細がないので含まない。企業の動物実験ではそういうものがあつた。

ワーキンググループがレビューしたものから、グリホサートがおそらくヒト発がん性であると結論する十分な根拠があつた。

がんになる可能性に関しては IARC の分類は何を意味するのか？

IARC モノグラフはハザード分類である。これは根拠の強さを示すものである。がんになる可能性は、暴露の程度やその物質の影響の強さなどのような要因に依存する。

●欧州委員会 (EC : Food Safety: from the Farm to the Fork)

http://ec.europa.eu/food/food/index_en.htm

1. 食品獣医局 (FVO) 査察報告

● 米国—水産物

US United States - fishery products

03/03/2016

http://ec.europa.eu/food/fvo/audit_reports/details.cfm?rep_id=3585

2015 年 3 月 17～27 日に米国で実施された第三国査察計画の一部。将来 EU に輸出予定

の二枚貝の生産を管理する米国の適切な管理システムの実行を確認/評価するための査察。全体的に米国は国家甲殻類衛生プログラム（National Shellfish Sanitation Program）に基づく管理計画を適切に実行しているが、地域で差が生じている。

- スウェーデン—生きた動物及び動物製品の、動物用医薬品を含む残留物質及び汚染物質の管理評価

SE Sweden - evaluate the control of residues and contaminants in live animals and animal products including controls on veterinary medicinal products

02/03/2016

http://ec.europa.eu/food/fvo/audit_reports/details.cfm?rep_id=3579

2015年6月9～18日にスウェーデンで実施された、生きた動物と動物製品の医薬品、農薬、汚染物質の残留物の監視評価及び食品を生産する動物の動物用医薬品の使用についての公的管理評価。EUの要求を適切に実行するための法的管理措置と前回査察の勧告を受けての是正措置の実施状況の検査に焦点を当てた。スウェーデンの残留物監視はおおむね効果的で、よく機能した研究所ネットワークに支えられているが、馬のサンプリング、養蜂家の登録がされていないこと、農場管理の事前告知、構造上の欠点などでシステムが弱められている。

- 管理団体—ウクライナとベラルーシで活動する認可管理団体が適用するオーガニック生産規格及び管理方法

XC Control Body - organic production standards and control measures applied by a recognised Control Body operating in Ukraine and Belarus

02/03/2016

http://ec.europa.eu/food/fvo/audit_reports/details.cfm?rep_id=3582

2015年5月26日～6月5日に実施された、ウクライナとベラルーシの管理団体が適用したオーガニック生産規格と管理方法の適用を評価するための査察。管理団体は通常、欧州委員会が認めた生産規則と管理方法を適用している。生産フローに沿って特定した重要管理点（critical control points）の妥当性と実践した予防措置の有効性を含む提供情報に関する検査官による確認において欠点が指摘された。

- ブラジル—欧州連合輸出用の生鮮馬肉生産と肉製品の、残留物質と汚染物質の管理や認可手続きを含む管理運営評価

BR Brazil - evaluate the operation of controls over the production of fresh horse meat and meat products intended for export to the European Union, including monitoring of residues and contaminants as well as certification procedures

01/03/2016

http://ec.europa.eu/food/fvo/audit_reports/details.cfm?rep_id=3581

2015年9月16～28日にブラジルで実施されたEU輸出用馬肉の安全性と公衆衛生に適切な保証を提供できているかどうか評価するための査察。2014年の結果と2015年の評価に基づき、馬の残留物監視計画は適切な保障を提供しているとは言えないが、牧草地で育てられている馬の飼育状態と動物用医薬品による治療を最小限に抑えることが緩和要素となっている。馬の行動計画のデザインと実行、職員の教育不足などの欠点が公的管理システムの効果を弱めている。施設レベルでの公的管理は、屠殺場の衛生やHACCP、表示等ではEU要件に合うことを保証しているが、微生物やトリヒナ（旋毛虫）検査については必ずしも保証できていない。屠殺前後の検査はおおむね満足できるが、死後検査を行う補助者の雇用状況が必ずしも規制に則しておらず、獣医は規制が求める屠殺前検査を行っていない。

- 中国—遺伝子組換え作物

CN China - Genetically Modified Organisms

09/03/2016

http://ec.europa.eu/food/fvo/audit_reports/details.cfm?rep_id=3593

2015年11月18～26日まで中国で実施されたEU輸出用遺伝子組換え(GMO)食品及び飼料の管理システムを評価するための査察。中国からEUに輸出された米製品にGMOが存在したことによる緊急警告システム(RASFF)に応じて実施された。概してEUに輸出する食品、飼料、飼料添加物にはGMOに関するEU法に準拠していることを保証する包括的な輸出管理システムがある。中国当局はEUの決定事項に従い詳細管理システムを運営している。RASFFに警告を受けたGMO件数は減っており、違法取引への取り組みが行われている。GMO野外実験は適切に管理され、稲作がGMOで汚染されていないことを保証するために湖北省では適切に広域管理が行われている。稲作のGMO管理は他省でも行われている。中国の稲作にGM米が存在することは知られている。そのためEU輸出用に規制、管理された穀物生産にGM米が混入する潜在的なリスクがある。そのようなリスクを軽減するためにさらなる取り組みが求められる。

- フランス—水産物

FR France - fishery products

08/03/2016

http://ec.europa.eu/food/fvo/audit_reports/details.cfm?rep_id=3586

3月9～20日までフランスで実施された水産物管理評価査察。水産物と生産チェーンは概してEU法に従った適切な管理システムがあるが、海水処理の監視がなく生鮮水産物の温度基準が高すぎる。

2. 食品及び飼料に関する緊急警告システム (RASFF)

Rapid Alert System for Food and Feed (RASFF) Portal - online searchable database

http://ec.europa.eu/food/food/rapidalert/rasff_portal_database_en.htm

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

2016年第9週～第10週の主な通知内容（ポータルデータベースから抽出）

*基本的に数値の記載がある事例は基準値超過（例外あり）

*RASFFへ報告されている事例のうち残留農薬、食品添加物、食品容器、新規食品、カビ毒を含む天然汚染物質の基準違反等について抜粋

警報通知 (Alert Notifications)

トルコ産ヘーゼルナッツペーストのアフラトキシン(B1 = 6; Tot. = 16.18 µg/kg)、ドイツ産亜麻仁のベンゾ(a)ピレン(31.9 µg/kg)及び多環芳香族炭化水素(PAK4: 109.7 µg/kg)、イタリア産牛乳及び乳製品のアフラトキシン(M1 tot. = 0.152 µg/l)、スペイン産冷凍メカジキの水銀(1.3 mg/kg)、中国産ドイツ経由スプレー入り液体キャンディによるアレルギー反応(皮膚に)、チェコ共和国産塩味フライドポテトスナックの亜硫酸塩非表示(88 mg/kg)、中国産リトアニア経由グラスカップからのカドミウム(1; 1.1; 0.9; 0.9 mg/item)及び鉛(7.4; 8.6; 6.8; 6.9; mg/item)の溶出、オランダ産冷凍マカジキフィレの水銀(1.4 mg/kg)、原料イタリア産オランダ製造冷凍メカジキの水銀(1.5 mg/kg)、スペイン産冷凍アオザメの水銀(2.5 mg/kg)、など。

注意喚起情報 (information for attention)

スペイン産乾燥イチジクのアフラトキシン(B1 = 4 µg/kg)、ポーランド産チルドピーマンのエテホン(5 mg/kg)、セネガル産ピーナッツパウダーのアフラトキシン(B1 = 93.4; Tot. = 103 µg/kg)、バングラデシュ産冷凍エビの未承認物質マラカイトグリーン(1.6 µg/kg)及びロイコマラカイトグリーン(0.91 µg/kg)、スペイン産チルド海老の亜硫酸塩高含有(205 mg/kg)、アゼルバイジャン産ヘーゼルナッツ穀粒のアフラトキシン(B1 = 89; Tot. = 105 µg/kg)、インド産冷凍インドイカ下足のカドミウム(1.5 mg/kg)、モロッコ産缶入りヒマワリ油漬けイワシのヒスタミン(28; 16; 14; 15; 288; 46 mg/kg)、南アフリカ産ピーナッツのアフラトキシン(B1 = 5.4 / B1 = 8.6 µg/kg)、インドネシア産冷凍メカジキの水銀(2.6 mg/kg)、など。

フォローアップ用情報 (information for follow-up)

ドイツ産タイガーナッツのアフラトキシン(B1 = 26.7; Tot. = 47.9 µg/kg)、オランダ産可溶性飼料用の乾燥蒸留穀物の亜硝酸塩高含有(28.6 mg/kg)、粉の食品サプリメントのカフェイン高含有(一食あたり最大 670 mg)、ベルギー産飼料用亜麻仁の化学物質汚染リスク(シアン化水素酸 394 mg/kg)、リトアニア産未承認遺伝子組換え(cry1Ab, cry1Ac)長粒米、イタリア産白ワインの亜硫酸塩高含有(249 mg/l)、ウクライナ産動物の栄養として適していない飼料用キビ(有毒な種子)、など。

通関拒否通知 (Border Rejections)

中国産竹製子供用台所用品からのホルムアルデヒドの溶出(27 mg/kg)、エジプト産殻付き

ピーナッツのアフラトキシン(B1 = 96.6; Tot. = 107.3 µg/kg ; B1 = 71.2; Tot. = 79.7 / B1 = 9.5; Tot. = 10.5 µg/kg ; B1 = 19.3; Tot. = 21.6 / B1 = 90.4; Tot. = 104.6 µg/kg)、イラン産有機殻付きピスタチオのアフラトキシン(B1 = 52; Tot. = 56.5 / B1 = 92.4; Tot. = 101 µg/kg)、中国産鉄製パスタ製造機からのニッケル(238; 4; 5.2 mg/kg)とマンガン(0.3; 2; 0.8 mg/kg)の溶出及び高濃度の総溶出量(94; 14; 62 mg/dm³)、中国産緑茶の未承認物質アントラキノン(0.056 mg/kg ; 0.064 mg/kg ; 0.062 mg/kg)、トルコ産殻剥きピスタチオのアフラトキシン(B1 = 46.6; Tot. = 54.9 µg/kg)、トルコ産パプリカのホスチアゼート(0.095 mg/kg)、ベトナム産冷凍ブラックタイガー海老のオキシテトラサイクリン(162 µg/kg)、ブラジル産飼料用殻剥きピーナッツのアフラトキシン(B1 = 55.9 µg/kg)、タイ産ペットフードの水銀(0.1 mg/kg)、ベトナム産冷凍ナマズの禁止物質ニトロフラン(代謝物質)ニトロフラゾン(SEM)(1.3; 1.73; 1.73; 1.77; 1.93 µg/kg)、インド産バスマティ米の未承認物質アセフェート(0.03 mg/kg)及びカルベンダジム(0.08 mg/kg)、米国産食品サプリメント(タブレット、ドロップ)の亜鉛(50 mg/item)・ビタミン B6 (20 mg/item) とビタミン E (100 IU)高含有・未承認新規食品成分タバコイアインペティギノーサ - 樹皮、インド産発酵紅茶の未承認物質プロパルギット(0.12 mg/kg)、中国産殻剥きピーナッツのアフラトキシン(B1 = 11.6; Tot. = 71 µg/kg)、など。

その他アフラトキシン等多数。

● 欧州食品安全機関 (EFSA : European Food Safety Authority)

http://www.efsa.europa.eu/EFSA/efsa_locale-1178620753812_home.htm

1. 野外試験を統一する農薬ガイダンス

Pesticides guidance aims to harmonise field testing

1 March 2016

<http://www.efsa.europa.eu/en/press/news/160301>

世界の異なる地域で行われている地上野外消失試験 (TFDs) の方法を統一する新しいガイダンスが最終化された。このガイダンスは EFSA と米国 EPA、ヘルスカナダのワーキンググループが OECD のために開発した。

2. #Efsa4Bees へようこそ

Welcome to #Efsa4Bees

<http://www.efsa.europa.eu/en/press/news/160303a>

EFSA はミツバチの健康についての作業に関する専用のウェブサイトを作った。「#Efsa4Bees」には、ミツバチの多数のストレスのリスク評価プロジェクト(MUST-B)についての基本情報と農薬や動物の健康や環境リスクなどその他の分野の関連情報を含む。

#Efsa4Bees

<http://efsa4bees.efsa.europa.eu/>

(一部紹介)

- 何故ミツバチは減っている？

Why are bees in decline?

<http://efsa4bees.efsa.europa.eu/bees-in-decline>

Bees under attack : インタラクティブインフォグラフィック

(単一原因ではないことを強調)

- パルマで他家受粉 (相互交流)

Cross-pollination in Parma

by Ana Afonso 03.03.16

<http://efsa4bees.efsa.europa.eu/content/cross-pollination-parma>

ミツバチの健康についてのどんな話も、直ちに農薬の話、特にネオニコチノイドの話になってしまう。情熱を呼ぶトピックで、しばしば科学者は話を聞いてもらうのに苦労する。だから数日前にパルマで行われた会合に招待されて嬉しかった。グリーンピースや農薬対策ネットワークや養蜂業協会などの代表と一緒に EFSA の科学者として我々の作業を発表しアイデアを交換した。この会議では多様な問題がカバーされた。

3. 一日当たり 0.0025 µg/ 体重 kg 以下の摂取量でも特に懸念となる物質を発がん性データベース (CPDB) から同定

Identification of the substances from the Carcinogenic Potency Database (CPDB) which are of particular concern even if ingested at doses below 0.0025 µg/kg body weight per day

EFSA Journal 2016;14(3):4407 [11 pp.]. 1 March 2016

<http://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/4407>

CEF パネルは EFSA の 2015 年の高密度ポリエチレン(HDPE)についての意見を補足する情報を提供するよう欧州委員会に要請された。CEF パネルは 1547 物質を含む直近の発がん性データベース (Carcinogenic Potency Database : CPDB) を分析し、一日当たり 0.0025 µg/ 体重 kg で、あるいはそれ以下の摂取量でも特に懸念される物質を確認し、一覧表にした。この意見は、食品と接触する物質として使用するリサイクル HDPE 生産工程について、2015 年に採択された意見のリスク評価アプローチやその結論に影響を与えるわけではない。

4. 食品と接触する物質関連

- 食品と接触する物質に使用するナノ粒子の酸化亜鉛の安全性評価

Safety assessment of the substance zinc oxide, nanoparticles, for use in food contact materials

EFSA Journal 2016;14(3):4408 [8 pp.]. 2 March 2016

<http://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/4408>

透明紫外線吸収剤として重量あたり最大 2%で非可塑化ポリマーに使用するナノ粒子の酸化亜鉛について安全性評価を行った。酸化亜鉛はナノフォームで溶出することはないので、可溶性イオン亜鉛の溶出に焦点を当てるべきである。非可塑化ポリマーの最悪ケースとして、低密度ポリエチレンに使用される物質から生じるイオン亜鉛の溶出データは現在の特定移行限度 (SML) 内だが、ほかの原因による食事暴露とあわせると一人一日当たり 25 mg という上限 (UL) を超えることがある。2003 年、Scientific Committee on Food が亜鉛について NOAEL を 50 mg/人/日とし、一人一日当たり 25 mg を上限と設定している。

- **食品と接触する物質に使用する酢酸 α -トコフェロールの安全性評価**

Safety assessment of the substance α -tocopherol acetate for use in food contact materials

EFSA Journal 2016;14(3):4412 [7 pp.]. 2 March 2016

<http://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/4412>

ポリオレフィン用の抗酸化剤としての使用について安全性評価を行った。この物質をポリオレフィンに使用しても安全上の懸念を生じない。

- **使用後の PET を食品と接触する物質へリサイクルするために使用される Starlinger Decon 技術に基づく‘Coopbox’プロセスの安全性評価**

Safety assessment of the process ‘Coopbox’, based on Starlinger Decon technology, used to recycle post consumer PET into food contact materials

EFSA Journal 2016;14(3):4409 [13 pp.]. 2 March 2016

<http://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/4409>

室温で長期保存される全ての種類の食品と接触する物質の製造に 100%使用しても、安全上の懸念とはならない。この PET で作られたトレイは電子レンジとオーブンで使用するべきではない。

- **使用後の PET を食品と接触する物質へリサイクルするために使用される Starlinger Decon 技術に基づく‘Ecoiberia’プロセスの安全性評価**

Safety assessment of the process ‘Ecoiberia’, based on Starlinger Decon technology, used to recycle post consumer PET into food contact materials

EFSA Journal 2016;14(3):4411 [13 pp.]. 2 March 2016

<http://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/4411>

室温で長期保存される全ての種類の食品と接触する物質の製造に 100%使用しても、安全上の懸念とはならない。この PET で作られたトレイは電子レンジとオーブンで使用するべきではない。

- 使用後の PET を食品と接触する物質へリサイクルするために使用される **Starlinger Decon** 技術に基づく‘ANL’プロセスの安全性評価

Safety assessment of the process ‘ANL’, based on Starlinger Decon technology, used to recycle post consumer PET into food contact materials

EFSA Journal 2016;14(3):4410 [13 pp.]. 2 March 2016

<http://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/4410>

室温で長期保存される全ての種類の食品と接触する物質の製造に 100%使用しても、安全上の懸念とはならない。この PET で作られたトレイは電子レンジとオーブンで使用するべきではない。

- 使用後の PET を食品と接触する物質へリサイクルするために使用される **Starlinger IV+®** 技術に基づく‘Pramia Plastic Oy’プロセスの安全性評価

Safety assessment of the process ‘Pramia Plastic Oy’, based on Starlinger IV+® technology, used to recycle post-consumer PET into food contact materials

2016;14(3):4413 [11 pp.]. 2 March 2016

<http://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/4413>

室温で長期保存される全ての種類の食品と接触する物質の製造に 100%使用しても、安全上の懸念とはならない。

5. EFSA/WHO 報告書は毒性学的懸念の閾値 (TTC) に関する勧告を示す

EFSA/WHO report makes recommendations on Threshold of Toxicological Concern approach

www.efsa.europa.eu/en/press/news/160310a

EFSA 及び WHO は化学リスク評価への毒性学的懸念の閾値 (TTC) をレビューした合同ワークショップの報告書を公表した。

この会合に参加した専門家らは、TTC アプローチについて、化学物質への低用量暴露を評価するスクリーニングツールとして適しており、またヒト健康へのリスクを評価するのに追加データが必要な化学物質を特定するのにも適していると合意した。さらに、研究に関する明確な基準を設定し、既存のデータベースを統合することにより、TTC 及び Cramer 分類を支えるデータを永久保存することを勧告した。

*参考：食品安全情報（化学物質）No. 26/ 2014（2014. 12. 24）

【EFSA】 専門家が TTC について前向きに議論

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2014/foodinfo201426c.pdf>

毒性学的懸念の閾値 (TTC) アプローチについての EFSA-WHO ワークショップの結論と助言についてのパブリックコメント募集の結果

Outcome of a public consultation on the conclusions and recommendations of the

EFSA–WHO workshop on the Threshold of Toxicological Concern approach

10 March 2016

<http://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/1000e>

2014年12月3-5日に開催されたワークショップの結論案に対して2015年2月12日から4月12日まで意見募集を行った。14団体から99のコメントが寄せられた。

報告書：毒性学的懸念の閾値（TTC）アプローチのレビューと新しいTTC意志決定樹開発 Review of the Threshold of Toxicological Concern (TTC) approach and development of new TTC decision tree

10 March 2016

<http://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/1006e>

分析技術の向上により、意図しない化合物が食品や飲料水を含む環境中や人体から検出されることがますます増えると予想される。TTCはハザードデータが不完全でヒト暴露が想定される場合に用いる化合物の安全性評価のスクリーニング及び優先順位決定ツールである。TTCは化合物の評価や毒性データがある場合にはあてはめられず、現行の規制では要求されていない。EFSAとWHOは現在のTTCアプローチのレビューを行い、いくつかの改訂を提案した。専門家ワークショップを開催し、パブリックコメントを受け付け、公開会合を開催した。専門家らは、TTCアプローチは科学的リスク評価の基本原則に基づいておりスクリーニングツールとして使用できると結論した。既存の概念を拡大して改善する段階的アプローチを提案した（改訂意志決定樹）。遺伝毒性化合物のTTC 0.0025 µg/kg bw/dayは十分保護的である。例外はアフラトキシンやアゾキシー及びN-ニトロソ化合物やベンジジンのような極めて発がん性の高い物質である。DNAと反応しない化合物は他の段階で適切にカバーされる。無機化合物や金属、有機金属化合物、タンパク質、ステロイド、有機ケイ素化合物にはTTCは当てはめられない。他に、既存のデータベースを統合し、研究に関する明確な基準を設定することでTTC及びCramer分類を支えるデータを永久保存することなどを含む多数の助言を行っている。

*報告書本文

http://www.efsa.europa.eu/sites/default/files/corporate_publications/files/1006e.pdf

報告書に示されたTTC値は次の通り（報告書本文中：Table 5）。

種類	TTC 値 (µg/人/日) *	TTC 値 (µg/kg 体重/日)
遺伝毒性に関連する構造をもつ化学物質	0.15	0.0025
有機リン系化合物及びカルバメート類	18	0.3
Cramer Class III	90	1.5
Cramer Class II	540	9
Cramer Class I	1800	30

*成人体重 60 kg で計算

6. EFSA-RIVM シンポジウム：化学物質混合物のリスク評価と毒性試験の将来

EFSA-RIVM Symposium: the future of risk assessment and toxicity testing for chemical mixtures

Utrecht, Netherlands, 18 May 2016

<http://www.efsa.europa.eu/en/events/event/160518a>

毎日、私達は食品や大気、皮膚を介して複数の混合した化合物類に暴露されている。そのような複合化学物質への暴露による公衆衛生リスクを評価するための方法の開発には大きな進歩が見られている。EFSA とオランダ RIVM は、そのような方法について議論するためのシンポジウムを 5 月に開催する。

化学物質の安全性評価は一度に一つの化合物への暴露に関するもので大部分を動物試験に頼るものがあったが、我々は、現在二つの問題に直面している。一つは混合物についての有用な試験法がないこと、もう一つは動物試験を減らすべきという要求に添うため新しい試験法を開発する必要があるということである。

シンポジウムでは、欧州における農薬の累積リスク評価導入について、動物試験を減らす一方で化学混合物の有用な毒性試験に関する知見をどう強化するのかについて、新しい試験技術がどのように複合毒性とヒトリスク評価の理解を改善するのかについて焦点をあてる。シンポジウムのプログラムや詳細については近日中に公開する。

7. AMAC/EEIG の提出した申請に基づく全ての動物種用 *Corynebacterium glutamicum* の様々な株を用いて産出した濃縮液状 L-リジン(塩基)、L-リジン 1 塩酸塩、L-リジン硫酸の安全性と有効性

Safety and efficacy of concentrated liquid L-lysine (base), L-lysine monohydrochloride and L-lysine sulphate produced using different strains of *Corynebacterium glutamicum* for all animal species based on a dossier submitted by AMAC/EEIG

EFSA Journal 2016;14(3):4346 [3 pp.]. 11 March 2016

<http://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/4346>

濃縮液状 L-リジン(塩基)と L-リジン 1 塩酸塩は *Corynebacterium glutamicum* の遺伝子組換え(GM)株から、L-リジン硫酸(固体・液体)は非遺伝子組換え株から産出される。GM *C. glutamicum* 'A'から産出される L-リジン 1 塩酸塩には遺伝子組換え抗生物質耐性遺伝子の存在によるハザードが考えられる。GM *C. glutamicum* 'A'から産出される濃縮液状 L-リジン(塩基)には対象種、使用者、環境への懸念はない。GM *C. glutamicum* 'B' や 'C'から産出される濃縮液状 L-リジン(塩基) と L-リジン 1 塩酸塩はデータ不足により安全性を結論できなかった。L-リジン硫酸は抗生物質耐性遺伝子を含むかどうか不確かなため安全性を結論できなかった。評価を受けた製品は非反芻動物種には有効な L-リジン源だと考えられている。L-リジン源として反芻動物にも同様に有効であるためには、反芻胃での分解から守ることが必要である。

●英国 食品基準庁 (FSA : Food Standards Agency) <http://www.food.gov.uk/>

1. Nua Naturals は表示されている摂取方法が不正確なためオーガニックアプリコットカーネルをリコール

Nua Naturals is recalling its Organic Apricot Kernels due to incorrect instructions for use on the label

3 March 2016

<http://www.food.gov.uk/news-updates/news/2016/14948/nua-naturals-recalling-organic-apricot-kernels>

「1日3～5個以上食べないように」と表示されているが、FSAは、ビターアプリコットカーネルはシアン化物に関連する急性及び長期毒性影響のため成人1日1～2個よりも多く食べるべきではないと助言している。

* FSAI に関連記事を紹介

2. 2016年3月12日までチアシードについての意見募集

Views wanted on Chia seeds by 12 March 2016

3 March 2016

<http://www.food.gov.uk/committee/acnfp/news-updates/news/2016/14944/views-wanted-on-chia-seeds-by-12-march-2016>

南米特定地域産のチアシードが既に販売されているオーストラリア産のチアシードと同等であることの確認申請。

3. 理事会ペーパー発表

FSA Board meeting papers published

3 March 2016

<http://www.food.gov.uk/news-updates/news/2016/14951/fsa-board-meeting-papers-published>

2016年3月16日の会合の資料掲載。議題は、FSA 革新プラン、3年に1回の6科学的助言委員会に関するFSA レビュー、カンピロバクター低減など。

4. FSA 長官任命

FSA Chair appointment

4 March 2016

<http://www.food.gov.uk/news-updates/news/2016/14953/fsa-chair-appointment>

2016年4月1日から Heather Hancock が3年間務める。

5. アレルギーをおこす食品を乳児に生後 3 ヶ月から与えることがアレルギーを予防するかもしれない

Giving allergenic foods to infants from three months old may prevent allergies

4 March 2016

<http://www.food.gov.uk/news-updates/news/2016/14958/giving-allergenic-foods-to-infants-from-three-months-old-may-prevent-allergies>

乳児に 3 ヶ月からアレルギーをおこす食品を導入することが、推奨量を摂取した場合、アレルギー予防に役立つかもしれないことを発見した FSA 資金提供による大規模の新しい研究が *NEJM* に発表された。

この研究は、母乳を与えられていてアレルギーをおこす食品を生後 3 ヶ月から与えた乳児と、6 ヶ月まで母乳のみで 6 ヶ月以降に食品を与えた乳児とを比べた。

全体として、アレルギーをおこす食品を早期に与えられた群の方が食物アレルギーが少なかったが、統計学的有意差はなかった。全ての食品の早期導入は簡単ではなかったが安全であった。アレルギーをおこす食品を推奨された量摂取できた乳児では全ての食物アレルギーは 2/3 減った。

FSA の主任科学アドバイザー Guy Poppy は「FSA は消費者の食物アレルギー管理支援に重要な役割を担っており、その中にはアレルギーの発症に関する知識の拡大も含まれる。この研究は我々の仕事の重要な部分である。これらの知見は乳児の食事に関する公衆衛生政策やガイドラインに情報を与えるための科学的根拠に加えられる」という。

主任研究者の Gideon Lack 教授は「アレルギーをおこす食品を推奨された量摂取できた乳児の解析結果はピーナッツについて最も驚くべきもので、ピーナッツの早期導入が、湿疹ハイリスクこども集団でも一般人でもピーナッツアレルギー発症を予防するという我々の他の研究からのますます増える根拠にさらに加わった。」という

共同研究者のロンドン St George's 大学 Michael Perkin 博士は「イングランドとウェールズ全地域の家庭の大変な協力により、我々は乳児が食物アレルギーになるのを防ぐために役立つのに必要な素晴らしい知見を得た。この研究は今後たくさんの重要な結果をもたらすであろう」

この話の背景にある科学

この研究の目的は母乳を与えられている乳児にアレルギーをおこす食品を早期に導入することが食物アレルギー発症予防になるかどうかを調べることである。

Evelina ロンドン子ども病院で登録された 1300 人以上の乳児を無作為に 2 群に分けた。一方は 6 ヶ月まで母乳のみを与えるようにという標準的助言を与えられた。もう一方は 3 ヶ月以降から 6 つのアレルギーをおこす食品、魚、調理した卵、乳、小麦、ごま、ピーナッツを導入するよう依頼された。

どちらの群も政府の助言に従って母乳が赤ちゃんにとって最良の食品で、母乳を最大 2 才まで与えるように助言された。どちらの群も母乳率は同じで 6 ヶ月時点では 96%以上、1

才では 50%以上がまだ母乳を与えられていた。

この研究では食物アレルギーに与える食べたアレルゲンの量、頻度、期間も検討した。食物アレルギーの予防は週に約ティースプーン 1.5 杯のピーナッツバターと小さなゆで卵 1 個で達成できるだろうことを発見した。参加者の安全性については、研究全般にわたって監視した。早期導入期間にアナフィラキシー事例はなかった。

* 最終報告書

Enquiring About Tolerance (EAT) Study

March 2016

<http://www.food.gov.uk/sites/default/files/eat-study-final-report-summary.pdf>

* 文献

Randomized Trial of Introduction of Allergenic Foods in Breast-Fed Infants

Perkin MR et al.

N Engl J Med. 2016 Mar 4. [Epub ahead of print]

<http://www.nejm.org/doi/full/10.1056/NEJMoa1514210>

6. 高濃度セレンのため USN Diet Fuel Ultralean (バニラクリームフレーバー) 栄養シェイク クリコール

USN Diet Fuel Ultralean (vanilla cream flavour) Nutrition Shake recalled due to high levels of selenium

7 March 2016

<http://www.food.gov.uk/news-updates/news/2016/14964/usn-diet-fuel-ultralean-vanilla-selenium>

消費者にリスクとなる可能性のある高濃度セレンを含むことがわかった。たまに摂取することによる懸念はないが、長期摂取はセレン中毒になる可能性があり避けるべきである。同製品の他の風味のものは影響されない。

* FSAI に関連記事を紹介

● 英国 NHS (National Health Service、国営保健サービス)

<http://www.nhs.uk/Pages/HomePage.aspx>

1. Behind the headlines

● ピーナッツへの早期暴露が「子どものアレルギーリスクを減らす」

Early exposure to peanuts 'cuts allergy risk in children'

Monday March 7 2016

<http://www.nhs.uk/news/2016/03March/Pages/Early-exposure-to-peanuts-cuts-allergy-risk>

[sk-in-children.aspx](#)

BBC ニュースが「アレルギーリスクを避けるために赤ちゃんの時からピーナッツを食べることの効果が新しい研究で支持された」と報道した。新しい研究は、人生の最初の 1 年にピーナッツスナックを食べることが子どものナッツアレルギーリスクを減らすことを示唆する。報道された研究はピーナッツを食べるように、あるいは避けるようにという試験を完了した 550 人の子どもの結果である。フォローアップの期間に、全ての子ども達に 1 年ピーナッツを避けるように指示した。試験でピーナッツを避けるように言われた子ども達は 6 才時点でのピーナッツアレルギーが 18.6%とピーナッツを食べた子どもの 4.8%より多い。ピーナッツ群では、試験終了時の 5 才でのピーナッツアレルギーは 3.6%で、その 1 年後の 6 才では 4.8%と同程度であった。これは暴露により作られた保護が、1 年ピーナッツを食べなくても維持されることを示唆する。この知見は期待できるが、どのくらいの期間続くかはわからない。既に他のものにアレルギーのある子どもはピーナッツアレルギーになりやすい。もしあなたの子どもがそうなら、ピーナッツを与える前に医師に相談すべきである。

* FSA に関連記事を掲載

● 「炭水化物が肺がんに関連」研究が発見

'Carbs linked to lung cancer,' study finds

Tuesday March 8 2016

<http://www.nhs.uk/news/2016/03March/Pages/Carbs-linked-to-lung-cancer-study-finds.aspx>

Mail Online が、米国の研究でグリセミック指数(GI)の高い食事を食べることと肺がんの関連が発見されたことを受けて、「白パン、ベーグル、米が「肺がんリスクを 49%増やす」と報道した。この研究は、新たに肺がんと診断された人と健康なテキサスの白人 4,000 人以上を対象にしたものである。研究者らは彼らの食事を評価し、GI の高い食品ー通常は白パンやジャガイモや米などの炭水化物の多い食品ーと肺がん診断が関連するかどうかを調べた。研究者らは高 GI 食品を最も多く食べる群（上位 1/5）が、最も少ない群（下位 1/5）より肺がんになる可能性が 49%高いことを発見した。しかしここからしっかりした結論を出すのは難しい。中間摂取群には何のリスク増もみられず食事摂取量の情報もない。既にがんを診断された人の食事の横断研究であり、生涯の食生活の信頼できる指標となるのかわからない。そして因果関係は証明できない。今後の研究課題ではあるが「炭水化物が新たなタバコ」というような強い根拠にはならない。

● チョコレートはあなたを賢くできる？

Can chocolate make you smarter?

Wednesday March 9 2016

<http://www.nhs.uk/news/2016/03March/Pages/can-chocolate-make-you-smarter.aspx>

Daily Express が「チョコレートはあなたを賢くする、40 年の研究が証明」と主張する。このニュースはチョコレートを週に最低一回食べた人の脳の試験成績が良かったという研究に基づく。米国の研究者らがチョコレートの種類や量にかかわらず定期的に食べることが脳の機能に関連するかどうかを約 1000 人の参加者で調べた。彼らは最低週に一回はチョコレートを食べたと言う人たちの記憶と抽象思考の試験成績が、減多にあるいは全く食べない人たちより良いことを発見した。主著者の Georgina Crichton がメディアに対してこのことは「電話番号や買い物リストを覚えるとか、運転中に話をするといったような一度に二つのことをできるとかの」日常生活の仕事がより良くできることを意味すると言ったと伝えられている。研究者らはこの結果は「定期的にココアフラバノールを摂ることは認知機能に良い影響を与える可能性がある」ことを示唆すると言う。

心疾患や脳卒中予防や脳機能向上などを含むチョコレートの健康効果を調べた研究は近年たくさんある。

研究の性質上、試験成績の改善がチョコレートのせいなのかどうかを言うことはできない、と研究者らは認めている。他に多数の要因が関与している可能性がある。

チョコレートの健康効果とされるものに誘惑される前に、チョコレートには砂糖と脂肪が多いのでほどほどにすべき、ということをおぼろげに思い出すのがいいだろう。

● 英国広告基準庁 (UK ASA: Advertising Standards Authority)

<http://www.asa.org.uk/>

1. ASA 裁定

ASA Ruling on Genr8online

https://www.asa.org.uk/Rulings/Adjudications/2016/2/Genr8online/SHP_ADJ_307554.aspx#.VtaGNpYVhaQ

eBay での「BTVの方がVitargoよりグリコーゲンの貯蔵効率がよく回復も早い」といった宣伝が健康強調表示として認可されていない。企業から強調表示ではなく比較だという反論があったが、文脈からこの製品が運動パフォーマンスを上げるとを宣伝していると理解でき、健康強調表示である。根拠として二つの研究を挙げたがそれらは健康強調表示の根拠として認可されていない。

● ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR : Bundesinstitut für Risikobewertung)

<http://www.bfr.bund.de/>

1. メディア報道と科学的評価の乖離が消費者の疑いを招く

Divergence between media reporting and scientific assessment leads to scepticism among consumers

01.03.2016

http://www.bfr.bund.de/en/press_information/2016/10/divergence_between_media_reporting_and_scientific_assessment_leads_to_scepticism_among_consumers-196773.html

－農薬や有効成分であるグリホサートの健康リスク認識についての「BfR 消費者モニター スペシャル」調査の結果が発表された－

食品の生産に農薬が使用された場合、そのような製品は消費者の評判が悪い。2016年2月にBfRが行った代表調査でこれが確認された。回答者の約半分が（農薬を使うと）食品の安全性と質が全体として低下すると信じている。この低下の理由として農薬と農業の工業化をあげている。「インタビューした1/3が特にメディアで報道された尿と母乳にグリホサートが検出されたことを特に心配している」とAndreas Hensel BfR長官は述べた。「最新の解析では実際には母乳からグリホサートは検出されていない。科学的視点からは、尿中に微量あるのは予想される。規制値以下の残留は認められているので食べられている可能性があるからだ」この点からすると、最近のビールからのグリホサートの検出も意外ではない。一般的に食品への農薬の使用とそれによる残留は規制機関により認められている。一方回答者の2/3は食品に残留は認められていないと考えている。

調査対象は代表性のある1000人。2010年に農薬についての調査を行ったとき、多くの消費者が規制値までの残留農薬が認められていることを知らなかった。BfRは2013年に始まったグリホサートの認可更新に関する議論があったため、2016年2月に再び農薬について調査した。その結果、農薬についての間違った思い込み（食品に残留農薬は禁止されている）がまだ一般的であることがわかった。さらにドイツ人の多くは、農薬を使って作った食品は有害で安価で、農薬無しで作った食品は健康的で美味しくて高いという意見を持っている。

調査では消費者が農薬の知識を得るのは主にメディアからであることも確認した。約70%が過去2年間で農薬についてメディアから聞いたり読んだり見たりしていたが、何が話題だったのかを覚えているのは半分だった。回答者の1/4は農薬のトピックスを一般的であいまいな用語でしかとらえておらず、1/4は何が報道されたのか全く覚えていない。健康リスクについて議論していたメディア報道を覚えていたのはたった9%である。

農薬を使うことのリスクとベネフィットについて尋ねたところ、2/3はリスクのほうが大きいと答えた。この信念に従って65%が残留農薬を含むまたは疑う食品を避けると言った。つまり多くが残留農薬には批判的である。

しかしながら認められた残留のある食品は健康影響に関しては安全である。人や動物が僅かな残留農薬、例えばグリホサート、を摂取している可能性があるのは事実である。しかしグリホサートは速やかに排泄され尿にも検出されることが予期される。これらの濃度は健康に有害影響が出るような量より遥かに少ない。分析方法の進歩によりますます微量

の、個々の分子レベルまで、物質が検出できるようになった。たとえばダイオキシンは 1960 年の検出限界は 1 ナノグラム(10⁻⁹ g)だったが、2010 年には 1 フェムトグラム(10⁻¹⁵ g)以下である。

農薬の規制に関しては 80%以上が農業業界や消費者同様消費者団体や NGO が重要な役割を果たすことを望んでいる。国や欧州レベルで法的義務を負っている政府当局がこの分野で重要だと考えているのは 70%超程度だった。

この結果は、人々には農薬の科学的リスク評価の基本や結果について、将来的により包括的な情報を与えられる必要があるという BfR の見解をさらに補強する。

2. 感受性の高い集団、特に子ども達が、科学的リスク評価の全ての基本となる

Sensitive populations, especially children, are the measure of all things in scientific risk assessment

BfR Communication No. 006/2016, 4 March 2016

08.03.2016 (英語版掲載の日付)

<http://www.bfr.bund.de/cm/349/sensitive-populations-especially-children-are-the-measure-of-all-things-in-scientific-risk-assessment.pdf>

子どもは有害物質の影響に特に感受性が高いとみなされている。このことは農薬有効成分の健康リスク評価や健康に基づいた基準値の設定に考慮されている。このため国際専門家委員会の設定した ADI や ARfD のような毒性学的基準値は、子ども達の暴露量と比較されている。このことはグリホサートについてもあてはまる。

グリホサートはドイツや世界中で認可されている一連の農薬の有効成分である。これらの農薬を使うと食品に残留する。法的最大基準を超えなければ、そのような残留が健康に影響することはなく安全で、合法である。科学的視点からは尿に微量のグリホサートが検出されることはあり得る。それはグリホサートが速やかに、主に尿から、排泄されていることを示すものである。

ドイツ食品監視計画の枠組みで調べられた過去 6 年の全ての食品の中で、約 1400 検体のグリホサートを調べている。この検体はドイツ人の実際の暴露量についての信頼できる推定をするにはあまりにも少ない。合計で 24 検体から残留グリホサートが検出された。子どもでも成人でも暴露量は ADI の 1%以下である。

製品が使用目的に従って正しく使用されればグリホサートによる子ども達の健康リスクはない。認可とライセンス授与方法でのリスク評価は全ての影響のある集団での予想される最大の摂取量を考慮している。子どもも含まれる。BfR の評価は EFSA の結論で、欧州の加盟国の専門家によって明確に確認されている。

ヒトや動物が食品や飼料から微量のグリホサートを食べる可能性があるのは事実である。しかしグリホサートは速やかに排泄されるのでヒトや動物の尿に検出されることが予想される。しかしこれまで尿中に検出されたグリホサートの濃度は消費者の健康への懸念とはならない。常に改良される分析技術のおかげですますます微量の物質が検出できるようにな

った。1960年代は ppm レベル ($10^{-6} = 0.000001$) で検出できたものが、2015年には最新のガスクロマトグラフィーと高分解能質量分析装置の組み合わせで ppq ($10^{-15} = 0.0000000000000001$)レベルまで検出できるようになった。(ドイツ語バージョンのグラフ参照

<http://www.bfr.bund.de/cm/343/entwicklung-der-empfindlichkeit-von-analytischen-meth-oden-fuer-den-nachweis-von-unerwuenschten-stoffen-in-lebensmitteln-am-beispiel-von-dioxin.pdf>

農薬有効成分の最大基準値が子どもにとっても安全かという質問に関しては、子どもにとって妥当な毒性学的データを安全係数を用いて考慮した上で ADI を導出している。ARfD についても同様である。推定暴露量は体重当たりになると成人の 3-4 倍多く食べる子どものデータを用いている。

3. BfR での研究：家禽の肥育で抗菌剤耐性病原菌を減らす計画が始まる

Research at the BfR: Project to reduce antimicrobial-resistant pathogens in fattening poultry launched

09.03.2016

http://www.bfr.bund.de/en/press_information/2016/12/research_at_the_bfr_project_to_reduce_antimicrobial_resistant_pathogens_in_fattening_poultry_launched-196934.html

連邦食糧農業省の Christian Schmidt 氏は共同計画「肥育家禽の抗生物質耐性病原菌を全段階を通して削減する方法の開発」(EsRAM)への資金提供を承認した。

抗菌剤耐性病原菌はヒトと動物の健康上のリスクとなる。このため、抗菌剤耐性ができる限り広まらないようにしなければならない。飼育、屠殺場、肥育家禽の加工の場で対応する必要がある。「家禽肉と家禽肉製品は消費者が抗菌剤耐性細菌と接触する重要な原因である」とドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)副長官 Reiner Wittkowski 教授は説明する。「この取り組みは、これらの食品の安全性をさらに改善するための私たちの出発点である。」自由大学が取り仕切る共同 EsRAM 計画で、BfR は肥育家禽での耐性細菌発生率を減らすために科学界と家禽産業からの計画参加者と協力し、解決策を見つける予定である。この共同計画はドイツ連邦議会の決議に基づき、ドイツ連邦食糧農業省(BMEL)から総額 246 万ユーロの資金提供を受けている。昨日、連邦食糧農業大臣である Christian Schmidt 氏はこの計画に資金提供すると発表した。この計画の開始に際して Schmidt 氏は述べた：「ヒトと動物用の医薬品がしっかり協力しなければ、抗菌剤耐性の拡大を防ぐことはできない。」この状況を鑑み、私たちはパートナーである連邦大臣 Hermann Gröhe 氏とともに、ワンヘルスアプローチを強化し拡大する。この計画は国際獣疫事務局 OIE、世界保健機関 WHO 及び国際連合食料農業機関 FAO に支援されている。ワンヘルスアプローチは 2008 年からドイツで確立している。薬事法第 16 回改訂ですでにドイツの生産動物への抗生物質の使用を最小化するためのシステムを確立している。抗菌剤耐性の予防を促進するさらなる側面

は研究である。これが家禽肉生産の抗生物質耐性細菌の発生と伝搬を減らすのに貢献する具体的な方法と製品の開発に私たちの省が出資する理由である。

(注：antibiotic を抗生物質、antimicrobial を抗菌剤としたが、区別して使用しているのかは不明)

●オランダ RIVM (国立公衆衛生環境研究所：National Institute for Public Health and the Environment)

<http://www.rivm.nl/en/>

1. ビスフェノール A : パート 2. リスク管理の助言

Bisphenol A: Part 2. Recommendations for risk management

2016-03-03

http://www.rivm.nl/en/Documents_and_publications/Scientific/Reports/2016/maart/Bisphenol_A_Part_2_Recommendations_for_risk_management

2014 年と 2015 年にビスフェノール A の労働者と消費者の安全暴露基準強化が提案された。RIVM は、新しい知見はより厳しい基準を十分正当化すると結論し、近い将来さらなる BPA 暴露削減のための追加対策を助言した。暴露を減らすための対策としては製品の BPA 放出量を少なくする、安全な代用品を開発する、など。

2. 企業から提供された使用量に基づいた食品添加物二酸化チタン(E 171)の暴露評価

Exposure assessment of the food additive titanium dioxide (E 171) based on use levels provided by the industry

2016-03-03

http://www.rivm.nl/en/Documents_and_publications/Scientific/Reports/2016/maart/Exposure_assessment_of_the_food_additive_titanium_dioxide_E_171_based_on_use_levels_provided_by_the_industry

二酸化チタン (E 171) は、菓子やソースなどの食品に使用される白色の食用色素。現在の研究で推定された長期暴露量の中央値は、高齢者 0.5 mg/kg bw/日 (上限 1.1 mg/kg bw/日) から子ども 1.4 mg/kg bw/日 (上限 3.2 mg/kg bw/日) の範囲であった。95th パーセンタイルは 3~4 倍ほど高い。主な摂取源は、飾り付けをしたファインベーカーリー、デザート、ソースであった。これらの推定は事業者からの提供情報に基づく。

●フランス食品・環境・労働衛生安全庁 (ANSES : Agence Nationale de Sécurité Sanitaire)

de L'alimentation, de L'environnement et du Travail)

<http://www.anses.fr/>

1. リクエスト No 2015-SA-0093 のグリホサートについての意見

OPINION of the French Agency for Food, Environmental and Occupational Health & Safety on the glyphosate request No 2015-SA-0093

Maisons-Alfort, 9 February 2016

<https://www.anses.fr/en/system/files/SUBCHIM2015sa0093EN.pdf>

ANSES は 2015 年 4 月 8 日に DGCCRF (フランス競争・消費・不正抑止総局)、DGPR (健康リスク予防総局)、DGS (健康総局)、DGT (労働総局) 及び DGAL (食品総局) から、IARC のグリホサートのモノグラフに提示されたデータを解析しグリホサートの発がん性についての分類を変更することを支持するデータかどうかを評価するよう依頼された。

* 参考：食品安全情報 (化学物質) No.04 (2016.02.17)

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2016/foodinfo201604c.pdf>

【ANSES】グリホサートのヒト発がん性についての ANSES の意見

2. フランスで使用認可された農薬カタログ、E-Phy ホームページ復活

The E-Phy website, the catalogue of plant-protection products authorised for use in France, is back online

03/03/2016

<https://www.anses.fr/en/content/e-phy-website-catalogue-plant-protection-products-authorised-use-france-back-online>

ANSES はフランスで認可されたすべての農薬、補助剤、肥料、培地—そしてその使用法—のための参考ホームページ、「E-Phy データベース」の新バージョンを本日発表した。新 E-Phy ホームページは以前と同じ構造と概念を維持：製品の 카테고리別に分類され、使用者が製品シートを見つけやすいようにデザインされている。新しい特徴を自慢すると、ホームページからすぐに様々な種類の製品へアクセスでき、大量の製品（肥料、培地、混合製品など）に関するデータの入手、新しいフィルターを用いた簡単検索などが可能になり、少数のクリックで新しい E-Phy はいつでもすべての製品に関する認可状況を提供する。

●アイルランド食品安全局 (FSAI : Food Safety Authority of Ireland)

<http://www.fsai.ie/index.asp>

1. Nua Naturals オーガニックアプリコットカーネルの表示されている摂取方法が正しくないためリコール

Recall of Nua Naturals Organic Apricot Kernels Due to Incorrect Directions for Use on Label

Wednesday, 2 March 2016

https://www.fsai.ie/news_centre/food_alerts/recall_nuanaturals_apricot_kernels.html

「1日に3～5個以上食べないように」と表示されているが、シアン化物に関連する急性及び長期毒性影響の可能性があるため、FSAIは1日に1～2個より多く食べないように助言している。製品の写真を掲載。

* ビターアプリコットカーネル及びビターアーモンド Q&A

Bitter Apricot Kernels and Bitter Almonds

https://www.fsai.ie/faq/bitter_apricot_kernels_and_bitter_almonds.html

* FSAI に関連記事を紹介

2. 使用方法の提示がないためレインボーオーガニックアプリコットカーネルをリコール

Recall of Rainbow Organic Apricots Kernalns Due to Risk Posed by Lack of Directions for Use

Thursday, 10 March 2016

https://www.fsai.ie/news_centre/food_alerts/recall_rainbow_apricot_kernels.html

Wholefoods Wholesale 社がリコール。シアン化合物による急性及び長期毒性影響の可能性があるため、成人は1日1～2個以上食べるべきではない。そのような表示がなかった。

3. 極めて高濃度のセレンにより USN Ultralean 栄養シェイクリコール

Recall of a Batch of USN Ultralean Nutrition Shake Due to Very High Levels of Selenium

https://www.fsai.ie/news_centre/food_alerts/recall_usn_ultralean_shake.html

表示されている量の165倍のセレンを含み、消費者に許容できないリスクとなる可能性があるためリコール。サイズは1kg、ベルギー産。製品の写真を掲載。(いわゆるプロテイン)

* FSAI に関連記事を紹介

● 米国食品医薬品局 (FDA : Food and Drug Administration) <http://www.fda.gov/>,

1. FDA は特定の食品のアクリルアミド削減方法についての企業向け最終ガイダンスを発表

FDA Issues Final Guidance for Industry on How to Reduce Acrylamide in Certain Foods March 10, 2016

<http://www.fda.gov/Food/NewsEvents/ConstituentUpdates/ucm374601.htm>

ヒト健康リスクを低減することを支援するために、FDA ガイダンスは事業者に対し、自分達が製造している食品中のアクリルアミド濃度を認識して実施可能であれば削減への取り組みを検討するよう薦めている。また、栽培者、加工業者や外食産業の事業者がアクリルアミド濃度を減らすことができるように様々な方法も提供している。FDA は追加で消費者向け助言も提供する。ただし消費者には従来の健康的な食事への取り組みがアクリルアミドを減らすことにつながるとしている。

***事業者向けガイダンス：食品中のアクリルアミド**

Guidance for Industry: Acrylamide in Foods

<http://www.fda.gov/Food/GuidanceRegulation/GuidanceDocumentsRegulatoryInformation/ucm374524.htm>

本ガイダンスはアクリルアミド濃度を減らすために可能な多様なアプローチを提案するものであり、特定のアプローチを決めているものではない。また、アクリルアミドについて最大推奨濃度やアクションレベルを特定せず、法的な強制措置を行う権限をとみなわない。本ガイダンスで提案しているのは、ジャガイモと穀物を主原料とする食品に関するもの。ジャガイモに関しては低糖低アスパラギンの遺伝子組換え品種や食品添加物を利用するなど、安全性向上のために使える技術も紹介している。

***アクリルアミド：食事、保管、調理に関する情報（消費者向け助言）**

Acrylamide: Information on Diet, Food Storage, and Food Preparation

<http://www.fda.gov/Food/FoodborneIllnessContaminants/ChemicalContaminants/ucm151000.htm>

（フレンチフライとトーストの焼き具合による色の違いを写真で紹介）

***アクリルアミド Q&A**

Acrylamide Questions and Answers

<http://www.fda.gov/Food/FoodborneIllnessContaminants/ChemicalContaminants/ucm053569.htm>

2. FDA は消費者のための多言語健康詐欺保護計画を発表

FDA Unveils Multilingual Health Fraud Protection Initiative for Consumers

March 10, 2016 by FDA Voice

<http://blogs.fda.gov/fdavoices/index.php/2016/03/fda-unveils-multilingual-health-fraud-protection-initiative-for-consumers/>

消費者は絶え間なく、しばしば最も脆弱な人々を標的にした危険な詐欺であるニセの治療法についての宣伝に攻撃されている。FDA は独自の教育計画でこれと対抗している。そして私達は医療専門家や地域の指導者達に協力を求めている。

3月6～12日の全国消費者保護週間に、FDA は新しい動画や消費者向け記事を英語、ス

ペイン語、簡体中国語、韓国語、ベトナム語、タガログ語に翻訳した、新しいマルチメディア多言語イニシアチブを開始している。目的は？消費者に対してダイエタリーサプリメントとして販売されている輸入汚染製品の危険性について警告し、健康詐欺予防のためのヒントを与えることである。

あなたの患者や知り合いにこの情報をシェアして欲しい。さらに FDA のサプリメントについての情報サイトを訪問して欲しい。スペイン語やいくつかのアジアの言語で予防法が提供されている。

- **Some Imported Dietary Supplements and Nonprescription Drug Products May Harm You**

<http://www.fda.gov/ForConsumers/ConsumerUpdates/ucm466588.htm>

また次の健康詐欺のページにも情報がある。

- **FDA Health Fraud**

<http://www.fda.gov/ForConsumers/ProtectYourself/HealthFraud/default.htm>

汚染製品の販売業者は主に米国だが、しばしば海外産の製品を特定の民族集団を標的にして売っている。英語以外の言語で表示された製品がフリーマーケット、不要品交換会、エスニックショップ、個人の家などで販売されている。

また口コミで友人や家族や同僚を誘うこともある。テレビ、ラジオ、雑誌、新聞、ダイレクトメール、ソーシャルメディア、電子商取引プラットフォームなどでも宣伝している。

業者は十分なサービスを受けていない人たちを餌食にして、英語が流ちょうではない人たちは医療へのアクセスが十分でないことや言葉の壁、健康リテラシーの低さ、文化的信仰などにより詐欺の犠牲になりやすい。

健康詐欺は医薬品や医療機器、生物学的製剤、化粧品の販売を含む数百万ドル産業である。インチキ製品は重大な、時に致命的傷害をもたらす可能性があり、さらに病気の適切な診断や治療を遅らせることによる害をもたらす。

詐欺的製品はしばしば肥満や糖尿病、関節炎、がん、HIV を予防・治療・治せるとして販売されている。一部の詐欺師達は顧客に対し、医師に相談することなく処方されている医薬品の使用を中止してその代わりに彼らの製品を使うよう薦める。

FDA はこのような製品の多くが表示が間違っていてしばしば医師の指導の下でしか使えない成分を含むことを発見してきている。消費者は FDA に MedWatch で有害事象を報告できる。患者の氏名は秘密にされる。また詐欺商品の通報もできる。英語が話せない人でも地域の消費者苦情コーディネータの援助で問題を報告できる。

3. 公示 : **Sextra** には表示されていない医薬品成分が含まれる

Public Notification: Sextra contains hidden drug ingredient

3-3-2016

<http://www.fda.gov/Drugs/ResourcesForYou/Consumers/BuyingUsingMedicineSafely/MedicationHealthFraud/ucm488983.htm>

FDA の検査でシルデナフィルが検出された。製品の写真を掲載。

4. 警告文書

- Lucy's Weight Loss (dba. Waisted With Lucy) 2/17/16

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/2016/ucm487353.htm>

減量用ダイエタリーサプリメント各種の表示されていないジクロフェナック、シブトラミン、フェノールフタレイン

- Cool Lawn Holsteins LLC 2/22/16

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/2016/ucm487448.htm>

食用に販売された乳牛の残留動物用医薬品デスフロイルセフチオフル

- Sachau, Jake 2/18/16

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/2016/ucm487657.htm>

食用に販売された乳牛の残留動物用医薬品チルミコシン

- Gordondale Farms, Inc. 2/24/16

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/2016/ucm488139.htm>

食用に販売された乳牛の残留動物用医薬品デスフロイルセフチオフル

- Sharim Distributing Co Inc 2/11/16

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/2016/ucm488185.htm>

ダイエタリーサプリメントとして販売されている製品から FDA の検査でシルデナフィル、ジチオデスメチルカルボデナフィルが検出されている

- HoneyCombs Industries, LLC 2/24/16

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/2016/ucm488547.htm>

各種製品の宣伝が新規医薬品（咳シロップという製品名）、ダイエタリーサプリメント CGMP 違反。

- Raphah, Inc. 2/26/16

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/2016/ucm488392.htm>

ダイエタリーサプリメント CGMP 違反。他工場内の状況の悪さ（ラベルのない袋、蓋のない容器など）多数

- Herbal Energetics/In Joy Organics 2/25/16

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/2016/ucm488394.htm>

各種ダイエタリーサプリメントの宣伝内容（放射線防護、トラウマ用、鎮痛、あるいは製品名に「インフルエンザ」や「ウイルス」が入っていること）が新規医薬品、CGMP 違反、表示違反

- VitaSea Products Int'l, dba Wachters Organic Sea Products 2/25/16

<http://www.fda.gov/ICECI/EnforcementActions/WarningLetters/2016/ucm489158.htm>

各種製品の宣伝が新規医薬品（海藻ががん細胞を殺す、ケルセチンがアレルギーに効くなど）、ダイエタリーサプリメント CGMP 違反

-
- 米国 NTP (National Toxicology Program、米国国家毒性プログラム)

<http://ntp.niehs.nih.gov/>

1. NTP モノグラフ案のピアレビュー予定

Upcoming Peer Reviews of Draft NTP Monographs

<http://ntp.niehs.nih.gov/about/org/monopeer/vw/meetings/index.html>

2016年7月19日、パーフルオロオクタン酸(PFOA)とパーフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)の免疫毒性についてのモノグラフ案のピアレビューを予定している。

-
- 米国農務省 (USDA : Department of Agriculture)

<http://www.usda.gov/wps/portal/usdahome>

1. より個人的な助言を提供できる研究を推進するための栄養ロードマップ目標

Nutrition Roadmap Aims to Advance Research to Provide More Individualized Advice

<http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?contentid=2016/03/0057.xml&contentidonly=true>

2016年3月4日、ヒト栄養研究省庁間委員会 (Interagency Committee on Human Nutrition Research : ICHNR) は、政府の栄養研究を説明するためにデザインされた最初の栄養研究ロードマップを公表した。2016-2021 国家栄養研究ロードマップは、健康増進と疾患予防のためのより個人的な助言を可能にする研究にさらに焦点を当てようとしている。

*** 国家栄養研究ロードマップ 2016-2021:健康を増進し維持するための栄養研究を推進する**
National Nutrition Research Roadmap 2016-2021: Advancing Nutrition Research to Improve and Sustain Health

https://fnic.nal.usda.gov/sites/fnic.nal.usda.gov/files/uploads/2016-02-10%20-%20ICHNR%20NNRR%20%282%29_0.pdf

(ヒト栄養研究省庁間委員会 : ICHNR)

栄養改善は多くの問題への最も費用対効果の高いアプローチになりうる。

1983年に作られたヒト栄養研究省庁間委員会 (ICHNR) は省庁間の計画、協力、コミュニケーション改善に取り組んできたが、2013年初めに今後5-10年の重要研究分野について文書の戦略計画の必要性を認識した。ICHNRは国家栄養研究ロードマップ(NNRR)小委員会をつくり、NNRRを作成した。現在各機関が行っているプロジェクトの概要も含まれる。

2. オーガニック、遺伝子組換え、及び非遺伝子組換え作物の共存における経済問題

Economic Issues in the Coexistence of Organic, Genetically Engineered (GE), and Non-GE Crops

Economic Information Bulletin 149

February 2016

<http://www.ers.usda.gov/media/2022027/eib-149.pdf>

米国のオーガニックと慣行栽培作物の市場についての調査報告。

● 米国司法省 (Department of Justice) <https://www.justice.gov>

1. 食品成分企業の社長が数百万ドルの詐欺とメタンフェタミン前駆体悪巧みの罪状を認める

Principal of Dietary Ingredient Companies Pleads Guilty to Multi-Million Dollar Fraud and Meth Precursor Scheme

Tuesday, March 1, 2016

<https://www.justice.gov/opa/pr/principal-dietary-ingredient-companies-pleads-guilty-multi-million-dollar-fraud-and-meth>

ニュージャージーの各種ダイエタリーサプリメント原料会社の社長がメタンフェタミン前駆体化合物の販売との関連と、別件のダイエタリーサプリメント購入者を騙し資金洗浄をしたことを認めた、と司法省は発表した。

司法省の民事部長である Benjamin C. Mizer 主席司法次官補代理は「近年司法省は違法ダイエタリーサプリメントへの取り締まりを強化している。この事例は消費者と政府の両方が、アメリカ人が原料や健康増進のためのサプリメントという名の下に何を摂取しているのかを一層監視する必要があることを強調する。」と述べた。

ニュージャージーのワシントン行政区の David Romeo、46 才は、3 kg 以上のメタンフェタミン前駆体の販売、資金洗浄、メール詐欺、詐欺または誤解を誘う目的で不正商標表示食品を州を超えて販売した、の 4 件の罪状を認めた。Romeo は司法取引の一環として犯罪で得たお金 120 万ドル以上を払うことに合意した。

Romeo が認めた罪状は以下。彼はニュージャージーにあるダイエタリーサプリメント成分の販売会社である Global Nutrients, Stella Labs and Nutraceuticals の社長である。少なくとも 2003 年の初めには Romeo は従業員に対して、顧客（ダイエタリーサプリメントの製造企業）から実際に注文された食品成分の代わりに安価な代用品を使うよう指示していた。これらの代用品の使用は、しばしば顧客の同意無しに、あるいは知らせずに行われた。Romeo らはより安価な成分に変えることを「SOP」（標準操作法）と呼んでいた。

この悪事の中で彼らはフーディアと呼ばれる減量成分を売っていた。Stella Labs と Nutraceuticals は顧客に対し南アフリカの稀少植物である *Hoodia gordonii* が原料だとして販売していたものは中国の工場で製造したものだだった。

FDA の犯罪捜査部の特別調査員が虚偽のサプリメント疑惑を調査した。FDA 犯罪捜査部長 George M. Karavetsos は「不正商標表示ダイエットサプリメントの製造と販売はアメリカの消費者をリスクに晒す。我々の部門は消費者を公衆衛生上のリスクと詐欺から守るために司法省と協力している」と述べた。

Romeo と彼の会社は以前 FTC によりインチキダイエットサプリメント成分の販売を止めるよう命令されている。

● カナダ食品検査庁 (CFIA : Canadian Food Inspection Agency)

<http://www.inspection.gc.ca/english/toce.shtml>

1. 果物と木の実業界向けバイオセキュリティ基準発表

Biosecurity Standard for the Fruit and Tree Nut Industry Now Available

March 8, 2016

<http://news.gc.ca/web/article-en.do?nid=1038849>

カナダの果物と木の実業界を植物害虫や病気から守るのに役立つ新しいバイオセキュリティ自主基準を発表した。

2. 企業向け通知—新しいハラール表示と広告規制の執行

Notice to Industry - Enforcement of new halal labelling and advertising requirements

March 9, 2016

<http://www.inspection.gc.ca/food/labelling/food-labelling-for-industry/notice-to-industry-2016-03-09/eng/1457471205938/1457471257645>

2016年4月4日から、2年間の移行期間を経て新しいハラール表示と広告規制が発効する。

規制によると、全てのハラール表示と広告はハラール認証をした団体や個人の名前を明記する必要がある。食品へのハラール表示は自主的なものであるが、もし表示する場合にはこの規制に準拠しなければならない。

● オーストラリア・ニューサウスウェールズ州食品局 (The NSW Food Authority)

<http://www.foodauthority.nsw.gov.au/>

1. 消費者は Bangkok Betty Tea を摂取しないように

Consumers urged not to consume Bangkok Betty Tea

04 March 2016

<http://www.foodauthority.nsw.gov.au/news/newsandmedia/departmental/2016-03-04-do-not-to-consume-bangkok-betty-tea>

NSW 食品局は、Bangkok Betty Social Tonic Thai Tea として販売されている製品が合成大麻と考えられる物質を含む可能性があるため、消費者に摂取しないように強く求める。NSW 警察と協力して食品局が大量の製品を押収したが、既に購入した可能性のある人は摂取しないように。

茶に合成物質を添加するのは食品法違反で安全でない可能性がある。この製品は広く販売されていたのではなく、一部のたばこ屋やアダルトショップ、オンラインなどでこっそり取引されていた。1.5 g と 3 g のパウチで茶葉のようなみため販売されていた。製品の写真を掲載。

* 合成薬物についてのファクトシート

synthetic drugs

<http://www.health.nsw.gov.au/mhdao/Factsheets/Factsheets/synthetic-drugs.pdf>

● ニュージーランド一次産業省 (MPI : Ministry of Primary Industry)

<http://www.mpi.govt.nz/>

1. 公衆衛生警告 - 貝のマリンバイオトキシン

Public health warning - marine biotoxin in shellfish

03 Mar 2016

<http://www.mpi.govt.nz/news-and-resources/media-releases/public-health-warning-marine-biotoxin-in-shellfish/>

MPI は本日、Hokianga 港の南から Kaipara 港北の Pouto Point までの地域で貝を採ったり食ったりしないように警告した。定期検査の結果、麻痺性貝毒が最大 1.8 mg/kg 検出された。安全基準は 0.8 mg/kg である。

2. 私達の食品の中に何が入っているか調べるためのニュージーランドトータルダイエットスタディ

New Zealand Total Diet Study to look into what's in our food

04 Mar 2016

<http://mpi.govt.nz/news-and-resources/media-releases/new-zealand-total-diet-study-to-1>

[ook-into-whats-in-our-food/](#)

ニュージーランドトータルダイエツトスタヂ (NZTDS) 定期研究が開始した。NZTDS では農薬、汚染物質及び栄養素などの化学物質への暴露を評価する。

調査は 5 年毎に実施し、130 以上のニュージーランドでよく食べられている食品をサンプリングして検査する。2016 年を通じて各地で検体を購入し、食べられる状態で検査を行う。

* Learn more about the New Zealand Total Diet Study

<http://foodsafety.govt.nz/policy-law/food-monitoring-programmes/total-diet-study/>

* 2016 New Zealand Total Diet Study

<http://mpi.govt.nz/document-vault/11407>

(計画の概要)

3. 未殺菌乳を消費者に販売するための新しい基準発効

New requirements for the sale of raw milk to consumers come into force

11 Mar 2016

<http://www.mpi.govt.nz/news-and-resources/media-releases/new-requirements-for-the-sale-of-raw-milk-to-consumers-come-into-force/>

公衆衛生リスクを管理しつつ消費者の根強い需要に応えるバランスをとった規制が発効した。未殺菌乳を飲むことはハイリスクであり、食中毒リスクは殺菌乳より高い。酪農家が消費者に未殺菌乳を販売する場合には各種の厳しい基準を守る必要がある。また酪農場から消費者への直販しかできない。未殺菌乳を現在販売している酪農場向けの移行期限は 2016 年 11 月 1 日まで。

4. ニュージーランドのミツバチ巣箱の喪失は「低～平均的」

New Zealand bee hive losses 'low-to-average'

10 Mar 2016

<http://mpi.govt.nz/news-and-resources/media-releases/new-zealand-bee-hive-losses-low-to-average/>

ニュージーランドにおけるミツバチの群れの消失に関する調査の結果、消失率は国際研究に比較して「低～平均的」にランキングされることがわかった。

本日発表された 2015 年コロニー消失調査の結果によると、ニュージーランドの消失率は 11% で、北半球で報告されている 17% より低い。群れの消失の主要原因は女王蜂が雄を生む、あるいは女王蜂がいない、死亡するなどである。他は盗難、蜜がない、蜂が多すぎるなどである。

* 報告書 : Report on the 2015 New Zealand Colony Loss and Survival Survey

<http://mpi.govt.nz/document-vault/11512>

● 香港政府ニュース

<http://www.news.gov.hk/en/frontpagetextonly.htm>

1. 鉛増加事例は今や正常

Elevated lead case now normal

March 09, 2016

http://www.news.gov.hk/en/categories/health/html/2016/03/20160309_155400.shtml

血中鉛濃度が高かった人の濃度は正常にもどった、と政府は本日発表した。最初の検査でボーダーライン濃度だった人の再検査の最新結果による。これまで 153 人の血中鉛濃度がレビューされている。

● 韓国食品医薬品安全処 (MFDS : Ministry of Food and Drug Safety)

<http://www.kfda.go.kr/intro.html>

1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果

検査実査課/輸入食品政策課

2016.2.26~2016.3.3.

<http://www.mfds.go.kr/index.do?mid=676&seq=30708>

2016.2.19.~2016.2.25.

<http://www.mfds.go.kr/index.do?mid=676&seq=30605>

2. 残留農薬が基準を超過して検出された輸入浸出茶製品の回収

食品管理総括課 2016-03-09

<http://www.mfds.go.kr/index.do?mid=675&pageNo=1&seq=30792&cmd=v>

食品医薬品安全処は、(株)エスエイチインターナショナル (ソウル) が輸入・販売したサワーソップ茶製品から残留農薬シペルメトリンが基準(0.05ppm 以下)を超過して(9.07ppm) 検出されたため、販売中止及び回収する。回収対象は流通期限が 2016 年 8 月 7 日の製品である。また、流通せず保管中だった流通期限が 2016 年 12 月 19 日の製品も、残留農薬が基準 (シペルメトリン : 0.05ppm 以下、カルベンダジム : 0.01ppm 以下) を超過 (シペルメトリン : 0.43ppm、カルベンダジム : 4.65ppm) していたため廃棄した。

3. 食品医薬品安全庁、遺伝子分析による食品原料の真偽判別法の開発

新型有害物質チーム 2016-03-09

<http://www.mfds.go.kr/index.do?mid=675&pageNo=1&seq=30771&cmd=v>

食品医薬品安全処は、不当利益目的で肉眼では区別しにくい原料を使用した不良食品を摘発するために、2015 年は食品原料 45 種に対する遺伝子分析真偽判別法を開発した。

遺伝子分析法の原理は動・植物性食品原料の特定種にだけ存在する遺伝子の特定部位を捜し出して PCR で増幅させる方法である。今回開発された遺伝子分析法を収録した「食品中使用原料真偽判別指針書(V)」パンフレットを地方自治体、検査機関、産業体に配布し、2011年から2014年まで開発された分析法は CD に収録して一緒に提供する。

食薬処は汎政府推進課題中の一つの「不良食品根絶」の一環で該当の判別法を開発しており、2011年から計209種の遺伝子分析法を開発した。

4. 春の貝毒安全上の注意

農水産物安全課 2016-03-03

<http://www.mfds.go.kr/index.do?mid=675&pageNo=1&seq=30673&cmd=v>

食品医薬品安全処は、2016年3月から6月まで海洋水産省、市・道とともに生産・流通販売段階における水産物に対する貝毒検査を強化する。

*許容基準：麻痺性貝毒 0.8 mg/kg、下痢性貝毒 0.16 mg/kg

*関連情報提供：食品医薬品安全処告知事項(www.mfds.go.kr)、国立水産科学院予報・速報(www.nfrdi.re.kr)及び各市・道(所属機関)ホームページ参照

5. 総アフラトキシン基準超過のピーナッツ製品の回収措置

食品管理総括課 2016-02-25

<http://www.mfds.go.kr/index.do?mid=675&pageNo=2&seq=30589&cmd=v>

食品医薬品安全処は、ハニーピーナッツ製品から総アフラトキシンが基準（15.0 μ g/kg以下）を超過（453.2 μ g/kg）して検出されたため販売中止及び回収措置する。回収対象は、流通期限が2017年1月20日の製品である。

● その他

食品安全関係情報（食品安全委員会）から

（食品安全情報では取り上げていない、食品安全関係情報に記載されている情報をお知らせします。）

- スペインのカタルーニャ州食品安全機関(ACSA)、報告書「化学物質汚染 カタルーニャ州におけるトータルダイエットスタディ 2012年」で鉛の状況を公表
<http://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/show/syu04430030373>
- スペインカタルーニャ州食品安全機関(ACSA)、報告書「食品中の微量元素 カタルーニャ州におけるトータルダイエットスタディ」で亜鉛の状況を公表
<http://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/show/syu04430900373>
- スペインカタルーニャ州食品安全機関(ACSA)、2011～2013年のカタルーニャ州における食品媒介性人獣共通感染症及び薬剤耐性に関する報告書を公表

<http://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/show/syu04430630373>

ProMED-mail

- シガテラ魚中毒－米国：(北マリアナ諸島)

Ciguatera fish poisoning - USA: (Northern Mariana Islands)

2016-03-01

<http://www.promedmail.org/post/4060111>

Date: Tue 1 Mar 2016 Source: Marianas Variety [edited]

旅行者 9 人を含む少なくとも 15 人が先週(2016 年 2 月 22 日の週)、サイパンの Garapan のレストランで昼食を食べて保健センターに運ばれた。15 人の中には夜遅く来た 4 人の家族と家政婦が含まれる。看護師によると患者はレストランでバラクーダを食べ、一部は夕食に食べた家族に提供された。レストランの調理師も激しい痛みで病院に行った。旅行者の一人は「より良い治療」を求めて中国に帰国することを決意した。

地元の漁師によるとバラクーダは、特に大きいものは、食べられない。北マリアナ諸島では第二次世界大戦の名残の毒が海にあるので危険なものとみなされている。

(注：バラクーダによる神経症状はシガテラ魚中毒、と解説されている)

- 鉛、水－米国(第 3 報): (NY)

Lead, water - USA (03): (NY)

2016-03-05

<http://www.promedmail.org/post/4071887>

Date: Thu 3 Mar 2016 Source: Ithaca Voice [edited]

ニューヨーク州 Ithaca の学校の鉛検査の結果がさらに陽性のものが増えた。一方、校区と Tompkins 郡の保健省はいくつかの陽性検査結果に疑問を提示している。

2016 年 3 月 3 日にイサカ市校区 (ICSD) が 10 の学校の鉛検査の結果を公表した。一部を除き各校から 5 検体で、全部で 53 の検査結果のうち 28 検体が 15 ppb の EPA によるアクションレベルを超えていた。11 検体は 100 ppb 以上で 400 ppb 以上のものもあった。EPA の方針では 90 パーセントがアクションレベル超過なら対応が必要である。全ての学校でこれがあてはまる。一部は銅も検出された。90 パーセントがアクションレベルを超えたのは 2 校だけだった。

しかし Tompkins 郡の保健省はいくつかの検査結果に疑問を提示している。環境健康部長 Elizabeth Cameron は検査方法に懸念を表明している。検査官は検査の前夜に水道システムを閉鎖した。これは通常の検査方法とは違う。さらに水漏れがあつてシステムが減圧された可能性がある。ニューヨーク州保健省に相談したところ、この結果は実際の通常状態とは違う可能性がある。

ICSD は再検査を計画している。EPA に連絡をとって援助を求めた。

EurekaAlert

新しい研究によると、乳児用ミルクはアトピー性皮膚炎やアレルギーリスクを減らさない
Infant milk formula does not reduce risk of eczema and allergies, according to new study

8-Mar-2016

http://www.eurekaalert.org/pub_releases/2016-03/icl-imf030716.php

－特別なタイプのミルクはアレルギーリスクを減らさない－

BMJ に発表された、乳タンパク質を分解する処理をした加水分解ミルクについての 37 の試験データをレビューした研究。米国 FDA は以前に部分加水分解ミルクが一部の子ども
の湿疹リスクを減らすかもしれないという製造業者の強調表示を認め、2006 年のコクラン
レビューは加水分解ミルクを与えることはミルクアレルギーのリスクを減らすかもしれな
いという限定的根拠があるとしている。しかし新しい研究では統計学的に有意なリスク減
少はみられなかった。さらに多くの研究がミルク製造業者と財政的つながりがある利益相
反も明らかにした。この研究は英国 FSA が資金提供した。

*Hydrolysed formula and risk of allergic or autoimmune disease: systematic review and meta-analysis

Robert J Boyle et al., *BMJ* 2016;352:i974

<http://www.bmj.com/content/352/bmj.i974>

*エディトリアル：加水分解乳児用ミルクはアレルギー疾患リスクを減らすか？

Do hydrolysed infant formulas reduce the risk of allergic disease?

Caroline Jane Lodge et al., *BMJ* 2016;352:i1143

<http://www.bmj.com/content/352/bmj.i1143>

今回のレビューの強みは含まれた全ての研究の質を評価したことである。現在の助
言を更新するのに根拠を用いるべきである

知見は膝の骨関節炎の痛みを減らすのにビタミン D を使うことを支持しない

Findings do not support use of vitamin D to reduce pain from knee osteoarthritis

8-Mar-2016

http://www.eurekaalert.org/pub_releases/2016-03/tjnj-fdn030416.php

JAMA の 3 月 8 日号に発表された研究によると、膝に骨関節炎があつて 25-ヒドロキシ
ビタミン D 濃度の低い人にビタミン D サプリメントを与えることは膝の痛みを減らしたり
軟骨の減少を遅くしたりしない。

膝に骨関節炎があつて症状があり 25-ヒドロキシビタミン D 濃度の低い 413 人にビタミ
ン D3 (50,000 IU; n = 209)またはプラセボ(n = 204)を 2 年与えた。オーストラリアでの研
究。

平均年齢 63 才で半分が女性、82%の 340 人が試験を完了した。2 年にわたり MRI で測定
した脛骨軟骨の容量と痛みの指標で群間に差はなかった。

* Effect of Vitamin D Supplementation on Tibial Cartilage Volume and Knee Pain
Among Patients With Symptomatic Knee Osteoarthritis
A Randomized Clinical Trial

<http://jama.jamanetwork.com/article.aspx?articleid=2499277>

以上

食品化学物質情報

連絡先：安全情報部第三室